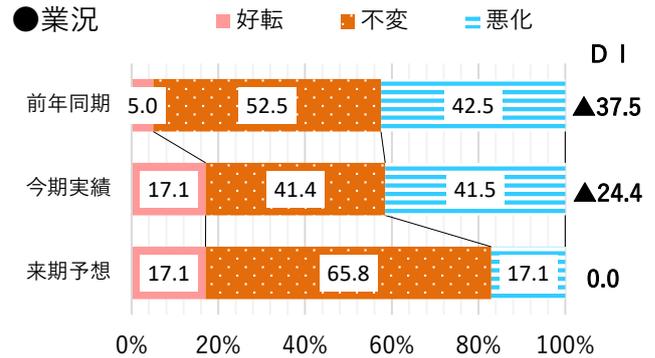


製造業

業況、売上、採算

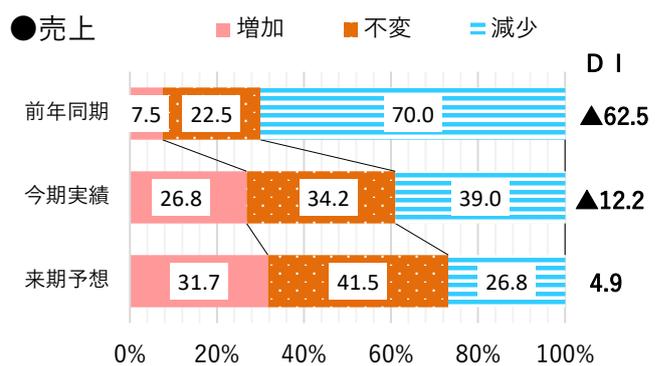
今期(2021.1~3)の業況判断DIは▲24.4で、前年同期(2020.1~3)と比べ13.1ポイント上昇しました。

来期(2021.4~6)は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



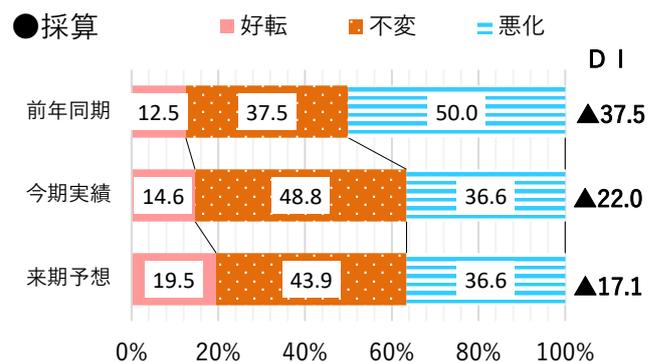
今期の売上DIは▲12.2で、前年同期と比べ50.3ポイント上昇しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

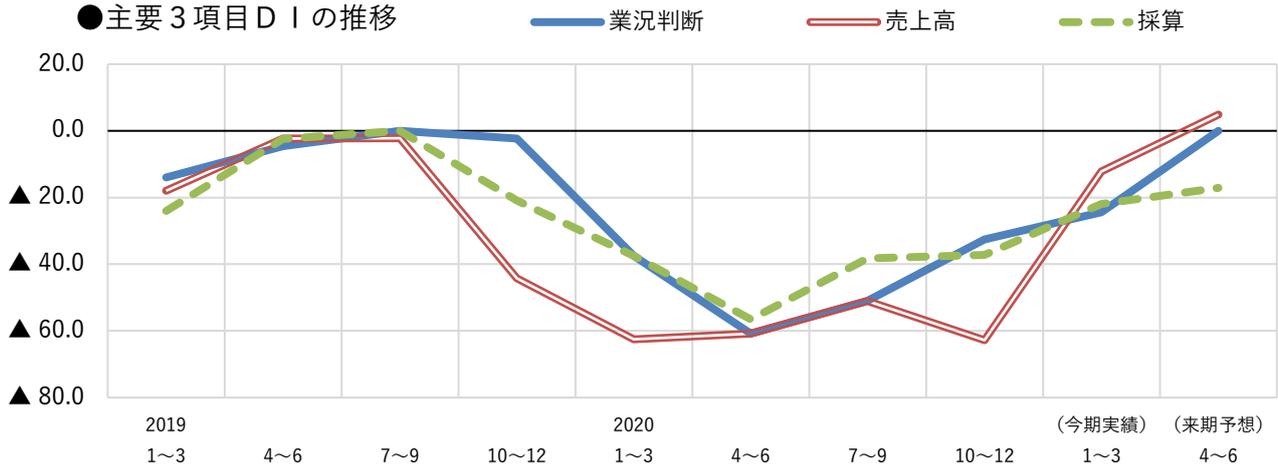


今期の採算DIは▲22.0で、前年同期と比べ15.5ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



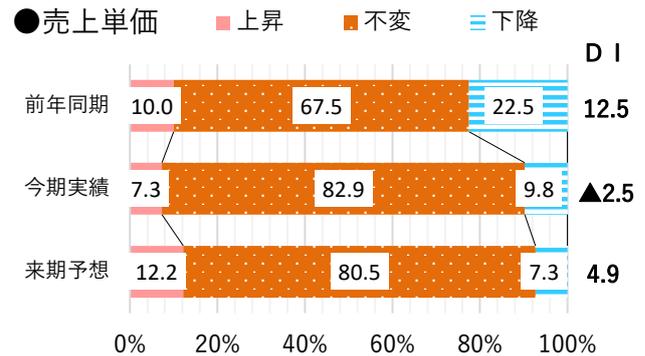
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

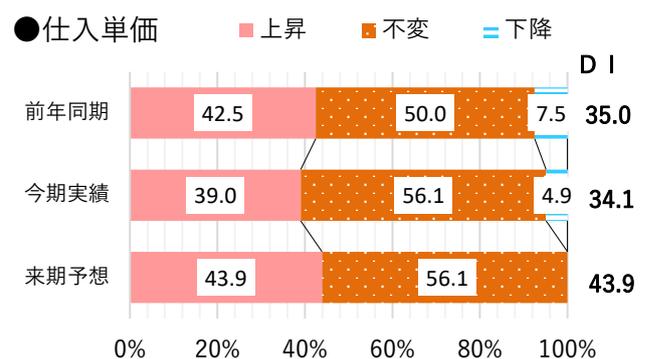
今期の売上単価DIは▲2.5で、前年同期と比べ15.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上単価が上昇に転じると予想しています。



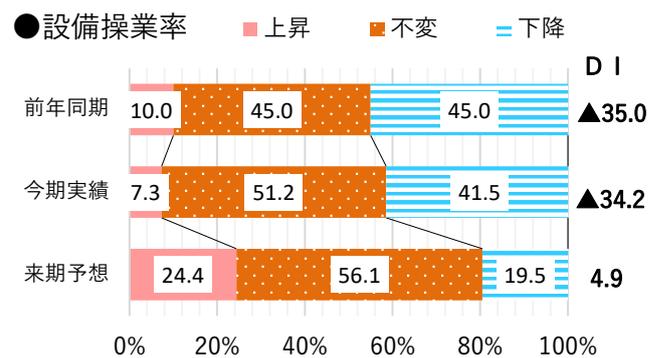
今期の仕入単価DIは34.1で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲34.2で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇しました。

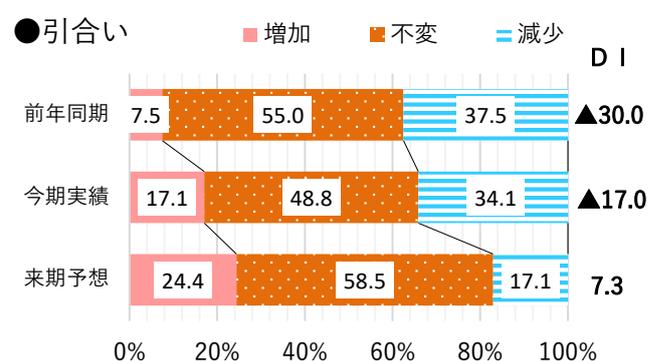
来期は、設備操業率が上昇に転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲17.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

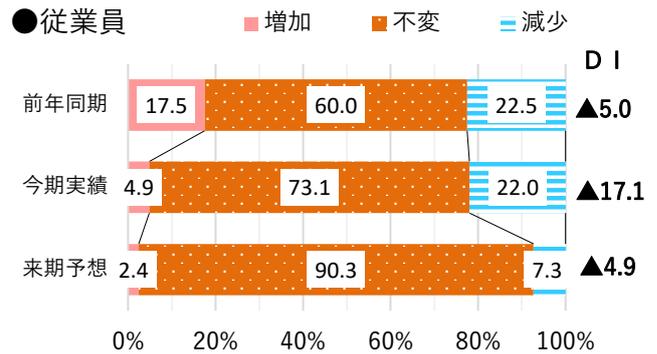
来期は、引合いが増加に転じると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.1で、前年同期と比べ12.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は22.0%、適正であると回答した企業の割合は65.8%、不足していると回答した企業の割合は12.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の51.2%を占めています。

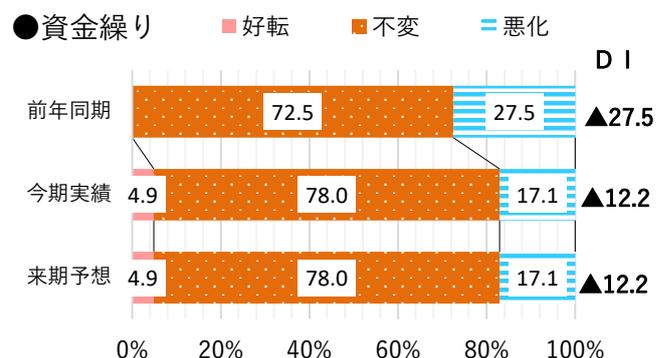
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、過剰である」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	7
	適正	21
	不足	2
減少した	過剰	2
	適正	4
	不足	3

資金繰り、設備投資

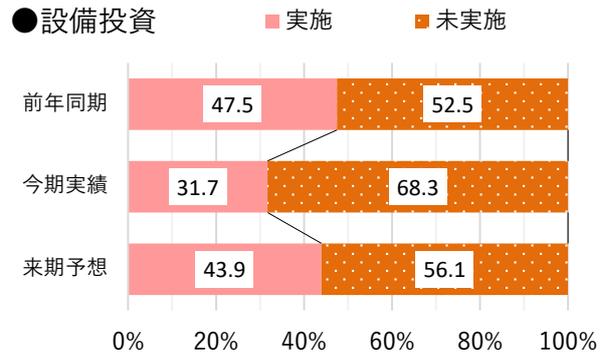
今期の資金繰りDIは▲12.2で、前年同期と比べ15.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに変化はないと予想しています。



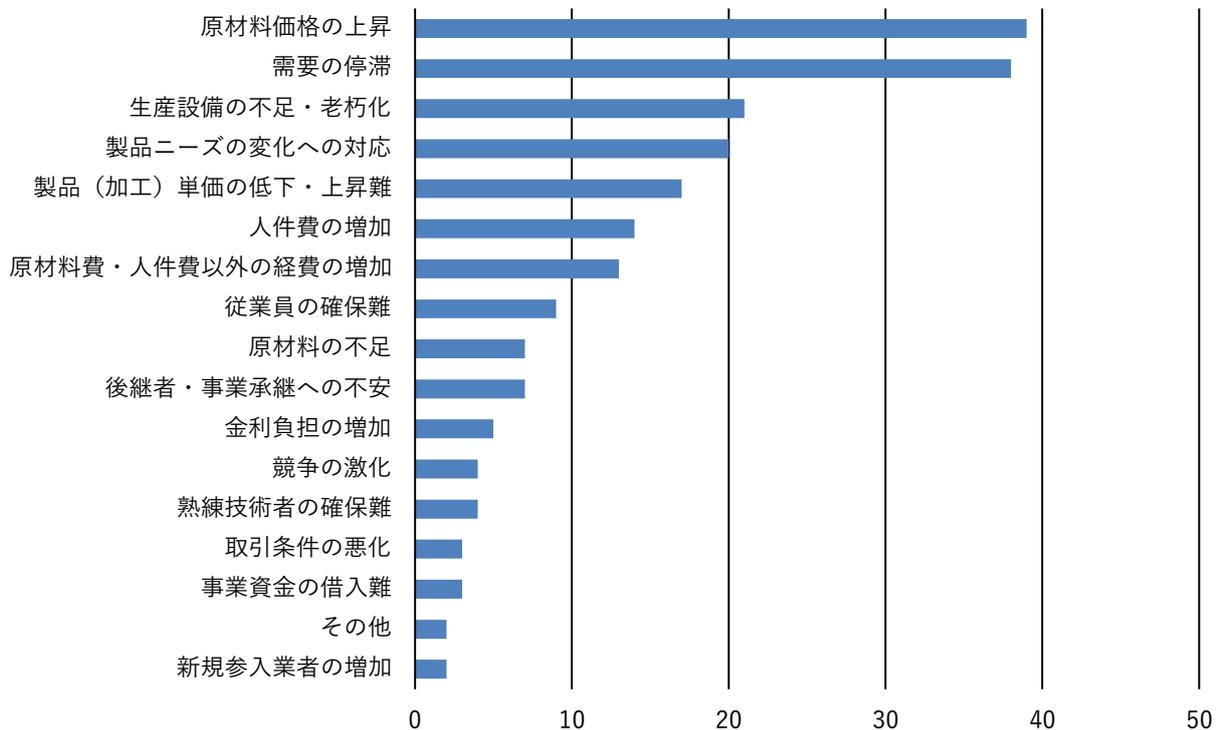
設備投資を実施した企業の割合は31.7%で、前年同期と比べ15.8%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「生産設備の不足・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 国内の建築向け投資の減少傾向や、原材料価格の高騰により業況が悪化した。（金属製品）
- コロナ禍のために延期している工事があり、工場稼働率が低下した。（金属製品）
- 社員数が減少した。新たな取引に関する問い合わせがあった。（金属製品）
- 売上が増加し、人材確保も順調だった。（金属製品）
- 売上は減少したが、原材料価格は下降したため、採算は前年並みだった。（プラスチック）
- 原材料価格が上昇したが、販売価格に転嫁できず、業況が悪化した。（プラスチック）
- 大型案件の引合いが減少しており、売上高の維持に苦労している。（機械器具）

- 降雪量の増加に伴い、履物部門の売上が増加したが、生産部門の稼働率が低下したため、増収にはならなかった。（ゴム製品）
- 需要が増加した。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスの影響で、客先によって売上が増減したものの、総じて前年並みの売上を維持できおり、新規顧客の開拓と販路拡大の成果を少しずつ実感できるようになった。親会社からの委託量も、交渉によって増加した。固定費は人員を削減することで圧縮した。（紙製品）
- 首都圏の緊急事態宣言が解除されなければ、経済の回復は難しいと思われる。（紙製品）
- 来年度の発注の見通しが立たず、苦労している。（衣服）
- コロナ禍のため営業を自粛した。（その他繊維製品）
- 新型コロナウイルスの影響で、他社ブランド製品の受注件数が減少した。E Cサイトでの通販売上が好調だったため、前年と同程度の売上を確保できた。物流コストの増加や調味料、香料などの仕入高の増加により原価比率が上昇した。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響で、ホテル、飲食、土産品等販売等の得意先への売上が大きく減少した。ニシンの価格は、漁獲時期の遅れや、新型コロナウイルスの影響による海外産ニシンの品薄により高値で推移した。（食料品）
- 巣ごもり需要で売上が増加したが、いつまで続くのか分からない。業務用商品の売上回復は見込めない。原料が高騰しているが、商品単価を引き上げると売上が減少するため、悩ましい状況にある。（食料品）
- 商品の原産地であるカナダやアラスカで、ニシンの不漁やコロナ禍によって漁獲量が減少したため、工場の操業度が低下した。（食料品）
- 突然のコロナ禍による混乱で売上が減少した前年同期と比べると、売上は増加した。個人消費に力強さが感じられない。（食料品）
- コロナ禍により人の動きが無く、経済が停滞している。飲食、ホテル向けの売上は一切無い。（食料品）
- 対前年同期比の売上は97%だった。原材料費がやや低下したため、採算は好転した。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響はほぼ無かった。（食料品）
- 売上額は3月に入り、やや好転した。（食料品）
- ネット販売が好調だった。（食料品）
- 飲食店の向けの販売は下げ止まりとなった。小売店向けの販売は堅調に伸びている。（飲料）
- 巣ごもり需要によって、業績が好調に推移した。（飲料）

[来期の業況について]

- コロナ禍による業界全体の不透明感は払拭されず、材料価格の高騰も続くと思われる。（金属製品）
- 原材料価格の大幅な値上げが予定されており、売上の回復も見込めない。（プラスチック）
- 原材料価格の上昇が続くと思われる。（プラスチック）
- 引合いの増加と成約のため、営業社員が奔走しているが、先行きは不透明である。（機械器具）
- 新型コロナウイルスの終息と、その後の消費拡大に期待する。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスの終息に期待する。（ゴム製品）
- 販売面での取組が実を結び、生産量が増加する見込みである。親会社からの委託量は維持したい。新型コロナウイルスが終息に向かうことで、土産品等に使用される内装紙容器の売上増加に期待する。現在の人員で増産分に対応することで、労務費の抑制と生産性の向上を図りたい。（紙製品）
- 新型コロナウイルス変異型の流行が懸念される。（紙製品）
- 天候やコロナ禍による穀物の不作や収穫量の減少、中国の穀物輸入量増加により、原材料価格の上昇が見込まれる。また、原油価格の上昇により包装資材の価格上昇も予想される。（食料品）
- 観光関連の売上は、新型コロナウイルスの動向に左右される。小売店向けとネット通販の売上は、新商品によって微増する見込みである。（食料品）
- 他社商品主体の生産体制から、自社商品の増産へ移行し、売上増加と販路拡大を図る。（食料品）
- 前年と同程度の業況を予想する。原材料費はやや下降したまま変わらないと思われる。（食料品）
- ゴールデンウィークに向けて、首都圏での経済や人の動きの活性化に期待する。（食料品）
- 数の子の売上が減少する時期であり、仕入期に入るため資金繰りが悪化する。（食料品）
- 原材料である水産物の輸入量が減少し、売上が減少すると思われる。（食料品）

- 長引くコロナ禍で、経済の停滞が深刻化する可能性がある。（食料品）
- 状況の改善には、2年以上かかると思われる。（食料品）
- ネット販売の好調が続くと思われる。（食料品）
- コロナ禍が一巡し、小売店向けの売上が堅調に推移すると思われる。（飲料）
- 長引くコロナ禍のため、予想できない。（飲料）